

## 令和 8 年度 徳島市立高等学校 第 1 回学校運営協議会 協議等の概要

1 日 時 令和 8 年 6 月 2 4 日（水）午後 3 時 1 0 分から午後 5 時まで

2 場 所 徳島市立高等学校 第 2 会議室

3 学校からの説明等

（1）市高の現状について

多田校長が、あいさつの中で昨年度の実績等、市高の現状について説明した。

（2）学校運営協議会について

多田校長が、設置要綱及び学校運営協議会の概要について説明した。

4 委員任命及び会長・副会長選出について

会長として佐々木 尊 氏、副会長として多田校長を選出した。

5 協 議

（1）学校経営方針について

多田校長が、令和 8 年度の学校経営方針について説明し、承認された。

（2）教育課程の編成について

住友教頭が、令和 8 年度から令和 1 0 年度に係る教育課程とそこに係る令和 9 年度からの教育課程の見直しについて説明し、承認された。

（3）本校の教育活動の概要について

住友教頭が、「令和 8 年度学校評価総括評価表」を用い、市高の教育活動の概要について本年度の重点項目を中心に説明した。

5 委員からの意見・提言等

\*本県においては少子化、人口流出の問題から地域を支える人材育成が課題である。学校と地域がビジョンを共有し、協働して子どもを育てることが地域活性化や地方創生につながる。

\*社会における AI 活用の状況から、教育現場においても禁止するだけではなく、「使いこなす力」を育成することが重要である。AI 活用の要となるプロンプトの質は、生徒の思考力、言語化能力と密接に関わるため、単なる ICT 活用ではなく、思考教育の延長として位置づける必要がある。

\*企業現場でも AI 活用は急速に進んでいる。業務のみではなく、学習面でも個別最適化された問題提起、弱点分析などが行われている。進路選択や受験対策においてもその影響は大きく、教育内容が実社会と乖離しないような配慮が必要であ

る。また、大人以上に使いこなしている生徒への適切な指導を体系的に行うべきである。

- \*教育現場での AI 活用については部分的活用にとどまっている。発想の整理やアイデア補助、文章添削、プレゼン準備支援などの活用が挙げられるが、思考を委ねるものではなく、思考の補助としての指導を行い、著作権や倫理面の課題を考慮して、学校全体の指導方針確立が必要である。
- \*中高大連携の深化に大きな期待感がある。特に IRP のような探究活動は主体的な学びを育てるうえで有効であり、高校生が主体的に学び行動する姿は中学生にとっても非常に有益なものとなるため、中学校教育と連携した取り組みが望ましい。
- \*探究的な学びを実現するためには考える時間、対話する時間が不可欠。知識伝達型の授業から、思考・対話・表現を重視した授業へ転換をしている現状を考えると、短時間授業では限界がある。また授業時間の削減に伴い、家庭学習の充実が不可欠となることから、生徒が自ら学ぶ仕組みづくりが大きな課題となる。
- \*本校は地理的な条件から、津波時の避難においては垂直避難が前提となる。課題としては、多数の避難者収容、長時間の滞在、地域住民との共用などが挙げられる。また休日や放課後の災害時には生徒自身の判断と行動が重要となるため、主体的避難ができるよう指導をする必要がある。
- \*全体として AI 活用の必要性和リスクについての意見、家庭学習時間の不足という課題、防災対応への課題、理数科の魅力化といった意見をいただき、今後の方向性として、地域・大学・企業連携を強化していく必要があることや探究学習を中心とした学校改革を進めていくことなどが話し合われた。